

# 『庄内っこ日和』

## もりのこっこ年長（初秋）能勢で稲刈り体験

令和3年9月15日 庄内こどもの杜幼稚園 教頭 岩崎巧

はじめに…

保護者の皆様いつも当幼稚園のもりのこっこにご理解、ご協力頂き誠にありがとうございます。  
この『庄内っこ日和』は、令和元年度から掲示用として始めた、当学園の理念や方針と重ね合わせながら、園外保育での子どもたちや先生の様子を、皆様にお伝えする”ドキュメンテーション”です。  
晴れたよい天気という意味もある日和という言葉は、庄内っこの未来を明るく照らしています。  
このお便りを通して、日々の子ども達や先生の様子や幼稚園の考えを少しでも知って頂けるきっかけとなれば幸いです。今回は、年長組もりのこっこ（初秋）能勢で稲刈りの様子をお伝えしたいと思います。

今回のねらい: 自然に触れながら、稲刈り体験をする  
自然の中で遊ぶことを楽しむ

当幼稚園の「もりの子っこ」とは、「鎮守の杜(もり)の子ども(つまり当学園の子ども)」が、「森の子ども」になるという意味です。

能勢にある野外センターや、能勢の田畑や川、自然豊かな公園には、庄内にはない決して人工的に作り出す事の出来ない自然が溢れています。

そこで子どもは、平常保育時以上に五感をフル活用しながら、四季ごとに活動する経験をします。それが、情操豊かな人間になる大事な活動であると思っております。(庄内の保育の根っこp37参照)

庄内の保育の根っこ



はじめまして  
赤いピーマンさん

中川さんに頂いた、採れたての赤ピーマン。ドライカレーに入れて美味しく頂きました。次の日、赤ピーマンってパプリカと違う野菜？というこどもの疑問から、調べると…赤ピーマンは、緑のピーマンが熟した野菜ということがわかりました。こすもす組の前に調べたポスターを貼っているの、ぜひご覧ください。



おまけ

農家の中川さんのお兄さんに「ミゼット」という50年前の軽トラに乗せてもらいました。



稲刈り

農家の中川さんの畑で、稲刈りを行いました。説明をしっかりと聞き、子どもたちは、しっかり手元を見て稲刈りをする姿がありました。「友達と近くやったら危ないで」や「下に向けてカマ持ちや」など、子ども同士注意し合ったり、「土の良い匂いがする」など畑の匂いを感じたりしながら稲刈りを楽しんでいました。作って、採って、食べて、調べて…諸感覚を活かして活動出来る年長さんに育ちを感じられました。